

「井手を走る」

井手、誕生から今まで。

加藤清正是「土木の神様」とも呼ばれ、熊本県内に数々の土木構造物を建設してきました。中でも県内を流れる河川から取水し、農業用水を引くための用水路である、「井手」は現存する貴重な歴史的構造物です。現在、熊本市、菊池郡、大津町、甲佐町の4箇所に井手が存在しています。

熊本市を流れる大井手（おおいで）は慶長16年に建設され、白川の渡鹿（とろく）堰から熊本市九品寺（くほんじ）で、再び白川に注ぐまで約二・七キロある農業用水路です。

明治に入ると、大井手の周辺の都市化が進み、より人々の生活と強く結びついていきました。大正時代は大井手の取水口である渡鹿堰が破壊されるなど、水騒動が数多く起りました。昭和になると、28年の白川大水害や、住宅が増えて生活排水が流入し、どぶ川化してしまいました。

しかしそんな中、昭和53年に「川をきれいにして、昔のように蛍がすめる環境にしよう」と、川の清掃や蛍の養殖を行うなどの、地元の人たちによる活動が始まりました。その結果、現在でも自生の蛍が見ることができます。



写真 大井手用水路



新しい井手の利用

そこで、私たちは加藤清正が創った歴史的構造物である、4つの井手を県内外の多くの人に知ってもらい、訪れてもらいたいと思いました。井手を巡ることで、それぞれの井手の歴史的背景や、当時住んでいた人の生活にどのように溶け込んでいたのかを知ることができます。その井手を巡る手段として、自転車に乗って、景色と時代背景を楽しむことを考えました。

熊本市の大井手から、菊池郡、大津町、甲佐町を周回するサイクリングコースを作りたいと考えました（地図は下記の通り）。



菊池井手（菊池市）



上井手（大津町）



大井手（熊本市）



大井手川用水（甲佐町）

ただ回遊するだけではなく、観光ガイドマップでその土地の歴史を分かりやすく紹介したり、昔の写真を載せて、実際の風景との比較をしたりすることで、初めて訪れた人にもわかりやすく楽しんでもらうように工夫します。

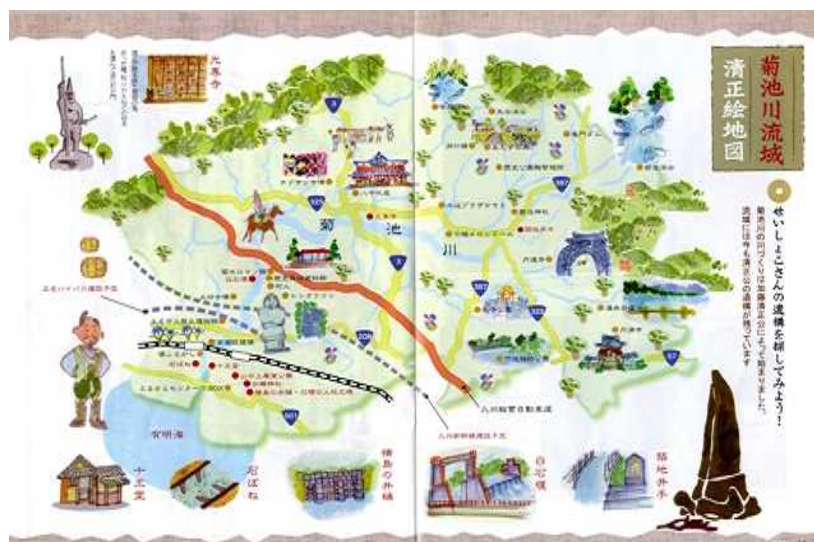


図 観光ガイドマップの例

また、自転車を停めて、ゆっくりとくつろいだり、景色を楽しんでみてはどうでしょうか？井手沿いの自然から、四季折々の情緒を感じることもできるはずです。

観光客だけではなく、大井手では川遊びなどのイベントも開催されているため、他にも大井手に近づくイベントを増やし、地域の方の憩いの場として活用していき、そういった場に参加するのも良いでしょう。



写真 川遊び

井手の存在価値

以上の提案より、サイクリングを通して、地域の歴史を学び、風景を楽しみ、また人々の交流から、新たなその土地の魅力の発見し、楽しむことができます。そうすれば、もう一度訪れてみたいと思うのではないのでしょうか？

今後、井手のことを知ってもらい、その地域の人や、訪れた人に親しんでもらうことで、熊本市に多くの人々が訪れ、井手がにぎわいのあるまちを作るものの一つとしてあり続けてほしいと思います。

出典

- ・ Hand To Land 編集室: 『Hand To Land 2007 summer』,p14~15
- ・ google マップ : <http://maps.google.co.jp/>
- ・ 疎水名鑑 : <http://www.inakajin.or.jp/sosui/>